

# AMDA

## 多様性の共存

# ジャーナル

特定非営利活動法人アムダ (AMDA)  
<https://amda.or.jp/>  
 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構  
<https://www.amda-minds.org/>  
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター  
<https://www.amdamedicalcenter.com/>  
 AMDA 兵庫 <http://amda-hyogo.com/>

2020年10月25日 VOL.43 第295号 定価550円  
 発行/AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1  
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717  
 E-mail:member@amda.or.jp  
 郵便振替:01250-2-40709 □座名:特定非営利活動法人アムダ

2020年  
秋号

# 秋

### 救える命があればどこまでも

## 連載インタビュー「支える喜び」シリーズ 第26回

### 岡山大学大学院医歯薬総合研究科

### 疫学衛生学分野 教授 頼藤 貴志 様

AMDA を支えて下さっている方々の様々なエピソードをインタビュー形式でお届けします。今回は、頼藤貴志先生です。

(聞き手:AMDA 理事 難波 妙)

**AMDA** 医師を志したきっかけを教えてください。

**頼藤** 病弱であった子どもの頃、父に「人のためになるようなことをしなさい」と教えられ、シュバイツァーに憧れ、その興味は、国際保健へと広がっていきました。そして、大学時代に出身地(熊本県八代市)の近くで発生した水俣病に出会い、社会的要因が病気をすることに気づきました。現在は、ヒトの病気の広がりや原因を調べる学問である「疫学」を専門としています。

**AMDA** WHO の会議にも日本から唯一の専門家としてご参加されましたね。

**頼藤** 1年9か月のハーバード大学での客員研究員を経て、2013年にWHOの機関であるIARC(国際がん研究機関)の会議で、大気汚染が発がん性を有するかを評価し、その決定に関与しました。

**AMDA** AMDA の活動に関わった経緯をお聞かせください。

**頼藤** 学生時代にタイに通い続けている頃に NGO に関心をもち、大学5年の時に AMSA (アジア医学生連絡協議会、1980年、菅波代表らが設立)の会議に参加したことが AMDA の活動に関わるきっかけとなりました。その後も AMDA のミャンマー事務所を訪問したり、2007年の AMDA International のインド会議に参加したりしました。そして2016年の熊本地震の時は、緊急医療支援活動に医師として被災者救援にあたりました。

**AMDA** その節は、大変お世話になりました。震源地、益城町の救護所では、地震で薬を無くし、色と形状しかわからない薬を懸命に調べる頼藤先生に何度も何度もお礼を言われた被災者の方、頼藤先生の姿勢に感動して、医学部に進学した当時の高校生など、支援活動の現場で頼藤先生のお人柄に支えられた人たちがたくさんいました。その後も2016年から19年、毎年アフリカ、ルワンダで行った児童健診、そして今年、7月の熊本球磨地方豪雨災害支援活動では、現在、岡山県感染症対策委員会委員として、新型コロナウイルス感染症対策に携わる頼藤先

生に、被災地人吉市立第一中学校避難所での AMDA 災害鍼灸の感染対策を指導していただきました。これまでの AMDA の活動を通じて、どのような感想をお持ちでしょうか?

**頼藤** AMDA の活動は、困った時はお互い様という「相互扶助」の活動理念など、言葉の定義がとても分かりやすいからこそ文化を超えて、支援する側とされる側がパートナーとしてつながっていると感じます。かつて、菅波代表と一緒に考えたのですが、私の医師としての信条は「時空を超えた命のつながり」です。これは AMDA での活動にも通じています。

**AMDA** 頼藤先生は、水俣病研究をライフワークとされていますね。

**頼藤** 「現場を忘れた疫学は、きらめきと真実を見失う」という恩師の言葉から、今も毎月、水俣の患者さんのもとに通い続けています。重荷を背負わざるを得なかった患者さんたちと築いた長年の絆から、多くの生き方を学びました。水俣病の先達の研究を締めくくる事、そして、恩師が診てきた患者さんたちよりも長生きをすることが私の使命です。これからも常に被害を受けた人々の声に耳を傾け、「時空を超えた命のつながり」に科学的に貢献していきたいと思っています。



# 新型コロナウイルス対応 in インド

インド国内で初の感染者が確認されたのは、新年早々のことでした。今年3月24日から急遽全面的な外出規制が布かれ、工場をはじめ、オフィス、公共の交通機関などが操業停止となり、日雇い労働者をはじめ、大勢の人が生活の術を失いました。6月末、インド政府が正式に国内の移動を可能にする策を講じた結果、国内では再び人々の大移動が始まりました。

## 【AMDA インド支部の活動】

### ①労働者の家族支援

外出規制により交通機関も停止し、都市部で働いていた日雇い労働者は徒歩で故郷を目指しました。その中には子連れの家族や妊婦の姿もありました。移動中の2歳半の子どもを連れた労働者家族から助けを求められたAMDAインド支部事務局長ミナクシ医師は食糧、調理用ガスコンロなどを用意し、支部の事務所を生活スペースとして3か月間提供しました。



### ②マスクと消毒液の配布

政府が外出規制を緩和し、飲食店や宗教施設が操業を再開し始めた6月初旬、感染防止用マスクの需要が高まりました。感染者数が増加傾向にある中で、職場に戻る人の数も増えている状況も鑑みAMDAインド支部はAMDA本部と協力し、マスク、消毒液やパンフレットなどを配り、感染症予防に対する啓発活動を行いました。



配布したマスクは洗って再利用できるコットン生地を利用したもので、南インドの農村地域ネーラギリ県の女性たちによる手作りです。同支部がこのマスクを購入することで農村地域に住む女性たちの収入になるため、生活支援にも繋がりました。



**物資配布先：**市場や建設現場労働者、スラム街の住人、公共施設の警備員、市街地の清掃スタッフ、ショッピングモールの買い物客、ガソリンスタンド、警察署、福祉団体『Sandiksha』の入居者

## 【AMDA ピースクリニックの活動】

インド東部ビハール州ブッダガヤで妊産婦の支援を行っているAMDA ピースクリニック。政府の外出規制が緩和された今年6月に活動を再開し、妊産婦の置かれている状況について聞き取り調査を行った結果、食糧にも困るほど生活に困窮している妊産婦が多くいることが分かりました。



6月17日以降、毎週火曜日に食糧支援を行っています。食糧を受け取った妊婦は、「私は妊娠5か月です。夫と一緒に村に住んでいた間、妊産婦検診を受けていませんでした。



ブッダガヤの実家に帰った時、母からAMDAを教えてもらいました。私が初めてAMDA ピースクリニックを訪れたとき、スタッフのバビータさんから、まず、AMDA ピースクリニックに協力いただいているバルマ医師の診療所に行くよう言われました。診療所では健康診断、血液検査、尿検査を行い、薬をもらいました。AMDAの支援によりすべて無料で受けられ、さらに食糧も無料で提供してくれます。ここに住んでいる人の多くは助けを求めています。このような支援を受けることができ、信じられない気持ちです。私の母はブッダガヤでテントを張って野菜を売っていますが、外出規制後、顧客はほとんど戻ってきませんでした。私のように苦しい生活を送る人に支援の手を差し伸べてくれるAMDA ピースクリニックの患者であることを幸せに思います。」と話しました。

(インド担当 岩尾 智子)



## インドネシア・スラウェシ島鉄砲水災害被災者緊急支援活動

2020年7月13日、インドネシア・南スラウェシ州にある北ルウ県マサンバ（Masamba, North Luwu Regency）において鉄砲水が発生、住む家や交通機関なども濁流に流され、住人も巻き込まれました。この災害により死者数21人、住居を失うなど4,202世帯が被災しました。

7月17日、AMDA インドネシア支部および AMSA（アジア医学生連絡協議会）ムスリム大学支部より医師5人、医学生5人が合同医療チームとして被災地マサンバ入りし、医療支援を実施。翌日より野外診療所での診療に入りました。また、今回の水害で公共の病院を含む主要な医療機関が被災していたため、合同チームは地方防災局や医療機関などに医薬品、コロナ感染防止用の個人防護具や消毒液、衣類や毛布などを寄贈しました。

同時に、被災された方々にも食料やおむつなどを含む



物資をお渡しするなど、物資の支援も行いました。

（GPSP 支援局 総務担当 ブルックス 雅美）

## 「経験から開かれる相互扶助ネットワーク」

2018年7月に発生した西日本豪雨では、岡山県倉敷市真備町でも甚大な被害を受けました。当時のご経験を AMDA との支援活動に活かされているお二人をご紹介します。

### ① 小規模多機能ホームぶどうの家

代表 津田 由起子 様

真備町内にあった「ぶどうの家真備」も浸水被害を受け、利用者は真備公民館菌分館に避難されました。当時 AMDA は、津田様と相談の上、同年8月末まで看護師などを派遣し、避難者の健康支援を行いました。

事業再開後、2019年3月から、「ぶどうの家」の活動を通じて集った方々が縫物ボランティア「縫い真備」として緊急支援で派遣者が着用するユニフォームのゼッケンなどを縫っていただき、既に延べ50人以上の派遣者がこのユニフォームを着用し、国内外での支援活動にあたりました。

さらに、今年7月の熊本豪雨災害の際には、人吉市内で被災した「小規模多機能型居宅介護事業所 菜の花」に津田様が事業再開に向け情報を提供。その後、AMDA から直ちに送られた支援物資は、当事業所を通じて被災された方々にお届けすることができました。



### ② AMDA 緊急救援ネットワーク登録

看護師 長谷 貴子 様

長谷看護師は西日本豪雨の時には、個人的に被災された方への物資提供を行い、翌年2019年からは、九州北部豪雨など、AMDA の災害支援に看護師として何度も参加されました。そして、新型コロナウイルスの感染が拡大し、マスクなどが品薄状態だった今年春、長谷看護師からのご相談を受け、AMDA と一緒に「マスク支援」が実現しました。この支援は、ご自身が西日本豪雨で経験した「必要とされるものを必要なタイミングでお渡しすること」を念頭に、房総半島台風（台風15号）の支援活動での聞き取り調査の経験を活かし、マスクを必要とする複数の施設に入手出来ているかの声かけをしていただきました。結果として、個人経営の施設など入手困難なところにまで支援が行き渡り、非常に喜ばれました。



このお二人のように「支援された側」「支援する側」としての過去のご経験を元に AMDA と一緒に被災者を支援する。このように開かれていく相互扶助ネットワークを目の当たりにすると、「人を支えるのは人である」ことを改めて実感します。これからも「人とのつながり」を大切に、活動を行っていききたいと思います。

（GPSP 支援局 総務担当 ブルックス 雅美）

## 令和2年7月豪雨（熊本県球磨地方）被災者緊急支援活動

7月4日早朝、熊本県・鹿児島県に大雨特別警報が発令。熊本県を流れる球磨川は13か所で氾濫・決壊しました。

AMDAは、熊本市から連携支援要請を受けた岡山県総社市から医療チームの派遣要請を受け、災害発生2日後の7月6日に医師1名、看護師2名、調整員1名が熊本県に入りました。

6日人吉市入りしたAMDAは、人吉保健所及び人吉医療センターでの各医療調整会議に出席。球磨村の避難所さくらドームにて活動を開始し、夜間帯は当直業務を行ないました。

8日さくらドームから移設された避難所、人吉市立第一中学に活動の拠点を移しました。この避難所には約100名の方が避難されており、協力団体は入っていましたが、日中の球磨村職員の方は4名。要援護者への配慮、感染対策に努められている避難所の様子から、職員の方々はご自身も被災しながら、村民の方々の命を最優先に動かれていることは想像に難しくなく、疲弊の色が表れていました。私たちの活動は、職員の方々の負担を軽減すべく環境を整えることから始まったように思います。

この日の時点で食料、飲料水支援が不安定であったため、AMDAは経口補水液を避難者全員に行き渡るように提供。また、マスク、手袋、医療ガウン、フェイスシールド等の医療資材も提供することができました。

AMDAの医師は、避難者の診療、夜間はオンコールで不眠、腹痛、外傷等に対応しました。避難する際に生じた靴擦れの傷が化膿していた方には応急処置を行ったうえで医療機関への受診を促した結果、病院で破傷風予防の薬剤が投与される事例もありました。

11日からは、避難後のストレスや疲れを緩和できるように、避難所内に「AMDA ケアルーム」を設置し、柔道

整復師、鍼灸師による施術を開始しました。被災後の片付けで腕や膝を痛めた方にはテーピングを施行し、長期に作業が続く今後を見据えてセルフケアの仕方を指導し大変喜ばれました。19日、近隣で受診可能な鍼灸院、整骨院リストをもとに、避難所の方々にご案内し活動を終わりました。尚、今回のコロナ禍での活動においては複数の専門家の助言の下、手指消毒、マスク装着だけでなく、動線、使い捨てシート使用など感染対策に努めました。（柔道整復師による施術利用者のべ64名、鍼灸の利用者のべ21名）



ケアルーム活動と並行し、人吉保健所長より支援の要請を受けAMDAは12日より相良村でも活動を開始。相良村教育長でもあり医師の緒方俊一郎先生のご指導ご鞭撻のもと、同村保健師とともに被災した200世帯の被災状況、健康状態を確認するため戸別訪問をしました。連日の猛暑のもと屋外での作業が続くことを懸念し、相良村役場に経口補水液の提供を行いました。22日

に被災した200世帯すべての訪問を完了。最後まで不在だった世帯やフォローが必要な世帯などについては保健師に報告し、AMDAは7月22日に現地でのすべての活動を終了しました。（AMDA現地災害支援活動に医師2名、保健師1名、看護師2名、鍼灸師3名、柔道整復師1名、調整員2名が参加）

また、現地活動を終えた8月、人吉市内の小規模多機能型居宅介護事業所「菜の花」が被災しながら8月中旬再開の準備をすすめていると聞き、現地では入手困難な滅菌ガーゼや包帯等の物資をお送りしました。

AMDAは今後も人吉市・球磨村・相良村の状況を注視していきたいと思えます。

（現地支援活動参加看護師（AMDA職員）高 和子）





## 熊本豪雨緊急支援活動 — ご協力者関係者のコメント

### ◇熊本県人吉保健所 所長 劔 陽子 先生



この度は、発災後早期より多大なるご支援を頂き、ありがとうございました。災害時には、様々なポリシーを持つ支援団体が入ってきますが、それぞれが、バラバラに活動をされると、收拾がつかなくなります。AMDA さんには度々保健所に寄って下さるなど、地域の仕組みを尊重した活動をしていただけました。当然のことのようですが、これがなかなか難しく、災害支援経験が豊富な団体だからこそだと思います。

最初は、人吉市内の避難所等の支援をして頂いていましたが、その後、人吉市や球磨村ほどの規模ではないものの、住家被害も大きく、多くの住民が避難していた相良村の支援に入っていました。報道では被災の程度が大きいところばかりに注目がいきますので、相良村のようなところはとてもきつい思いをしているのにも関わらず、見過ごされがちです。保健所もなかなか手が回らない中、AMDA さんが親身に村の保健師さんに寄り添い、保健活動を進めるお手伝いをして下さいました。本当に感謝しています。

実は、私も 1997 年に AMDA よりバングラデシュのサイクロン被害支援活動、ミャンマーでの保健活動に派遣して頂きました。その時の経験が、その後の私の公衆衛生人生の大きな礎となっています。今後の AMDA の益々のご発展をお祈り申し上げます。

### ◇小規模多機能型居宅介護事業所「菜の花」 施設長 永尾 潤也 様



この度は、令和 2 年 7 月熊本県豪雨災害被災地の当施設に、多くの物資の支援を頂きまして、誠にありがとうございます。

お送りして頂きましたガーゼ、

包帯、テープ、座布団、スリッパ、消毒液、手袋、ビニールエプロン、下着類、介護用の靴は被災された方々にご利用させて頂き、被災者の方々が大変喜ばれておられます。

当施設は、早急に復旧作業を行い 8 月に営業を再開したものの、被災され家や衣類などを失い認知症をお持ちで避難所での集団生活が難しい行き場のない方々が頼って来られている状況です。

そのような中、今回ご支援して頂いた物資が非常に役立っております。

被災して物資を入手するのは大変困難になっていきます。また物が売ってあっても被災され金銭的に余裕がない方は購入が難しい現状です。そのような中、ご支援頂いたおかげで、そういった方が非常に助かっておられます。これもひとえに AMDA 様のご尽力の賜物と、御礼申し上げます。

### ◇相良村教育長 緒方医院 緒方 俊一郎 先生



被災者の家庭訪問への手が足りていない状況の中、保健師の仕事をサポートして頂き、大変助かりました。また、人吉にも鍼灸師や柔道整復師の方が入って下さり、住民の方もとても喜ばれていました。ありがとうございました。

### 令和 2 年 7 月豪雨（熊本県球磨地方）被災者緊急支援活動でご支援頂いた支援団体のご紹介

菊池酒造

GUNZE

新宗連  
公益財団法人 新日本宗教団体連合会

宮本梅

中外製薬  
Roche ロシュグループ



生活協同組合おかやまコース

pal\*system

\*スペースの都合上、その他ご支援者様につきましては次ページの名簿に記載させていただいております。ご支援頂きありがとうございました。





AMDA を長年ご支援いただいている佐藤安南先生（岡山市在住）が AMDA をもっと身近に感じてほしいとの願いをこめたポスターを描いてくださいました。

## AMDA の活動は皆様からのご寄付で実施されています

平素より AMDA の活動にご支援くださりまして誠にありがとうございます。AMDA は国内外の支援活動に取り組んでおります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

（プロジェクト名）

- ・ 緊急人道支援 ▶▶ 国内外の自然災害救援活動および新型コロナウイルス支援に使われます。
- ・ 災害事前対策 ▶▶ 南海トラフなど大規模災害時、迅速に活動するための準備に使われます。
- ・ 中学高校生会 ▶▶ 青少年のボランティア育成と国際理解教育を推進します。
- ・ 次世代人材育成事業 ▶▶ 講師派遣及びインターン受け入れによる人材育成に使われます。

★指定プロジェクトが終了した場合は、「AMDA の活動全般」とさせていただきます。

尚、ジャーナルに同封する郵便振込票は、すべての方に会費・寄付金を催促するものではありません。

## クレジットカードでご寄付が可能です !!

休止していたクレジットカードによるご寄付の受付を再開しました。

以下のクレジットカードが、AMDA ホームページの寄付サイトよりご利用できます。



AMDA は認定 NPO 法人です。  
AMDA へのご寄付は寄付控除の  
対象になります！

クレジット決済によるご寄付の領収書の日付は、決済日ではなく決済代行会社から AMDA へ入金された日が領収日となります。  
領収書は、ご寄付の入金確認後に発行するため、お申込み受付から領収書発行まで 2 か月以上かかる場合がございます。  
あらかじめご了承ください。



## AMDA 書籍「見放さない、その命！ AMDA 魂の連携 総社市から全国へ！」絶賛発売中

7 月 6 日に AMDA より出版した本を多くの方にお読みいただき、感謝申し上げます。この度、西日本豪雨の時にアルミ工場の爆発などで被災した総社市下原地区の方より本のご感想を頂戴しましたので、掲載させていただきます。現在も絶賛発売中です。どうぞよろしくお願いたします。

### 「見放さない、その命！ AMDA 魂の連携 総社市から全国へ！」を読んで

下原自主防災組織 副本部長 川田 一馬 様

なんといっても第 1 章 総社市はかく奮闘せりでの片岡市長のメッセージです。当時の下原の救援状況とともに支援者・被災者の心をも赤裸々に捉えられ述べられています。明け方まで感動しながら読ませていただきました。

AMDA の菅波代表の思いのもと難波妙様ほかの方々のきびじアリーナでの支援、公会堂での点滴はこの本に触れる度に思い起こすでしょう。生涯忘れられません。

また、この本に登場されておられる全ての方々のメッ

セージに触れる度に当時の状況を思い出すでしょう。感謝しかありません。

私の周辺の方々から、買ったよ、読んだよ、大変良かった、と多くの声が届いています。

下原では第 2 集会場・防災倉庫の 2 階資料室に永久保存とし、どんな方々がどんな支援をどんな思いで支援いただいたかに触れられるよう、いつでも誰でも読めるようにして後世につなげたいと思っております。



### 特定非営利活動法人あゆみ（ぎんりんグループ）と協力協定を締結

特定非営利活動法人あゆみは、東日本大震災や熊本地震を初め、災害発生時に、全国で炊き出し支援を行っている団体です。



被災地に迷惑をかけないよう、支援活動中の食料確保は、AMDA の大きな課題の一つです。今後の災害支援活動時、「あゆみ」から、被災者だけでなく、AMDA チームに対しても、食事の提供を中心にご協力をいただく予定です。

協定締結後、鳥取県の平井 伸治知事と面会し、本協定をご報告しました。平井知事より「「あゆみ」の地元としても、本協定についてぜひ支援させていただきたいと思っております」と、「あゆみ」と AMDA に対して激励をいただきました。

(プロジェクトオフィサー 神倉 裕太郎)

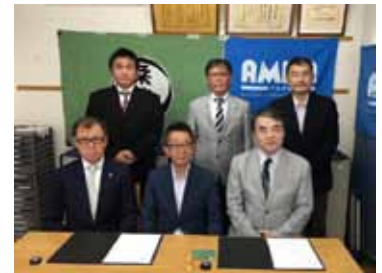
### 公益社団法人岡山県柔道整復師会と協力協定を締結

災害が発生すると、長引く避難所生活や、被災した家の片付け等で、腰や膝など体の痛みを訴える方が、避難所では多く見られます。

それらの体の不調に、柔道整復の施術は非常に有効で、令和 2 年 7 月豪雨支援では、AMDA から柔道整復師の派遣を行い、「腰が痛くて朝起きられなかったが、久しぶりにすぐに起きた」「毎日の家の片付けで、かなり痛かった膝が、改善された」など、施術を受けた避難者の方々から喜びの声がありました。

岡山県柔道整復師会からは、今後、岡山県内外で災害が起きた時に、柔道整復師の派遣などでご協力をいただく予定です。

(プロジェクトオフィサー 神倉 裕太郎)



### こくみん共済 coop 岡山推進本部様より寄付金をいただきました

8 月 26 日 AMDA 本部にて、こくみん共済 coop 岡山推進本部様からの寄付金贈呈式を行いました。昨年 5 月に創立 60 周年を迎えられ、翌月より 1 年間実施された「みんなの共済 みんなですすめて みんなで社会貢献 チャリティ推進キャンペーン」の寄付金を贈呈いただきました。「今回のご寄付を、災害支援はもちろんのこと、AMDA の活動に参加する医療従事者や活動を支える関係者にも活用してもらいたい。」と述べられました。

こくみん共済 coop 様は「たすけあい」を大切に、子どもたちへの支援、環境保全、そして防災・減災に関し継続的に支援。職員全員が防災士を取得し、岡山県下で防災セミナー、避難シミュレーションなども実施されています。

(GPSP 支援局 総務担当 ブルックス 雅美)

